

地元企業の景気動向調査(第36回)

■ 調査要領 ■

1. 調査目的

瑞穂市、本巣市、揖斐郡、本巣郡内の中小企業を対象とした景気動向の把握

2. 調査対象

上記の地域内の取引先中小企業 233社

3. 調査時期、期間

調査時期 2011年12月

調査期間 今期実績 2011年10月～12月

来期見通し 2012年1月～3月

4. 回答状況

回答企業数 163社 (回答率 70.0%)

5. 回答企業の業種構成及び平均社員数等

業種	回答企業(社)	構成比	平均社員数(人)	平均パート数(人)
製造業	40	24.5%	10.2	4.4
建設業	49	30.1%	13.0	0.8
卸売業	7	4.3%	10.7	5.7
小売業	31	19.0%	7.4	3.9
不動産業	10	6.1%	2.9	0.9
サービス業	26	16.0%	7.5	2.8
計	163	100.0%	9.6	2.8

6. 調査項目と結果の見方について

- ・ 調査項目 (景況感、売上高、収益、仕入価格、受注残、設備投資)
- ・ 調査方法として各調査項目についての判断調査としDI (ディフュージョンインデックス)により景気動向を判断します。

※DI = (好転・増加・上昇を選んだ企業数の割合) - (悪化・減少・下降を選んだ企業数の割合)

■ 景況調査の総括 ■

平成 23 年 12 月にお取引先のご協力を頂き、四半期に1度の景況調査及び平成 24 年の景気見通しについての特別調査を実施しました。

国内景気は大規模補正予算の効果によって、東日本の惨禍を克服し安定成長へ回帰する可能性が見込まれますが、欧州債務問題、金融システム不安が实体经济に及ぼす影響は大きく、ユーロ圏の落ち込みは避けられそうもありません。

こうした経済状況の中で行いました第 36 回景況調査では、全体的には前回からの落ち込みが見られました。個別には建設業と小売業では前回調査に比べて、景況感が改善しており売上高や収益の DI も改善しておりますが、他の業種においては前回調査に比べて、景況感が悪化しており、不動産業の景況感の落ち込みが特に大きくなっております。

来期の予想 DI を見ますと、全ての業種において景況 DI はマイナスポイントであり景気の回復はまだ先であることを示す結果となりました。

特別調査における平成 24 年の日本の景気見通しについては「やや悪い」から「非常に悪い」との回答が 7 割を占めており今後の景気について厳しい見方となっております。








■ 調査結果の概要 ■

1. 景況判断 【景況DIは4.1ポイント悪化しました】

今期(平成 23 年 10-12 月期)の景況判断DIは、前期より好転したとする企業の割合は 12.9%、悪化したとする企業の割合は 28.2%となりました。この結果、景気に対する企業の景況感を表す景況DIは前期(平成 23 年 7-9 月期)比、4.1 ポイント悪化して△15.3 となっています。

今期は建設業、小売業において前期より景況感が改善しております。不動産業は前回調査時の景況感が大きく改善しておりましたが、今回調査では大きく悪化しております。

来期(平成 24 年 1-3 月期)の予想DIは今期実績比 0.1 ポイント悪化の△15.4 となりました。

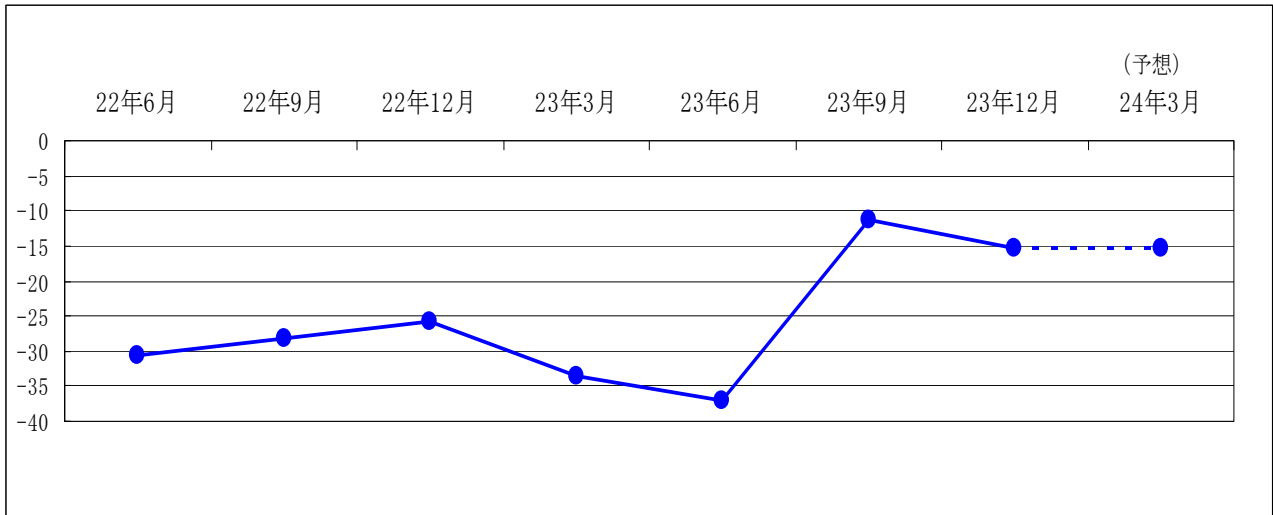
業種	今 期					来 期 予 想	
	天気図	好転(%)	悪化(%)	D I	増減(1)	D I	増減(2)
製造業		17.5	42.5	-25.0	-29.7	-25.7	-0.7
建設業		14.3	16.3	-2.0	13.7	-4.2	-2.2
卸売業		14.3	42.8	-28.5	-3.5	-57.1	-28.6
小売業		12.9	19.4	-6.5	20.5	-9.6	-3.1
不動産業		0.0	30.0	-30.0	-63.4	-20.0	10.0
サービス業		7.7	34.6	-26.9	-9.4	-15.4	11.5
(全業種)		12.9	28.2	-15.3	-4.1	-15.4	-0.1

天気図は前期と比較した今期の景況感を←悪い    良い→ で表しています。

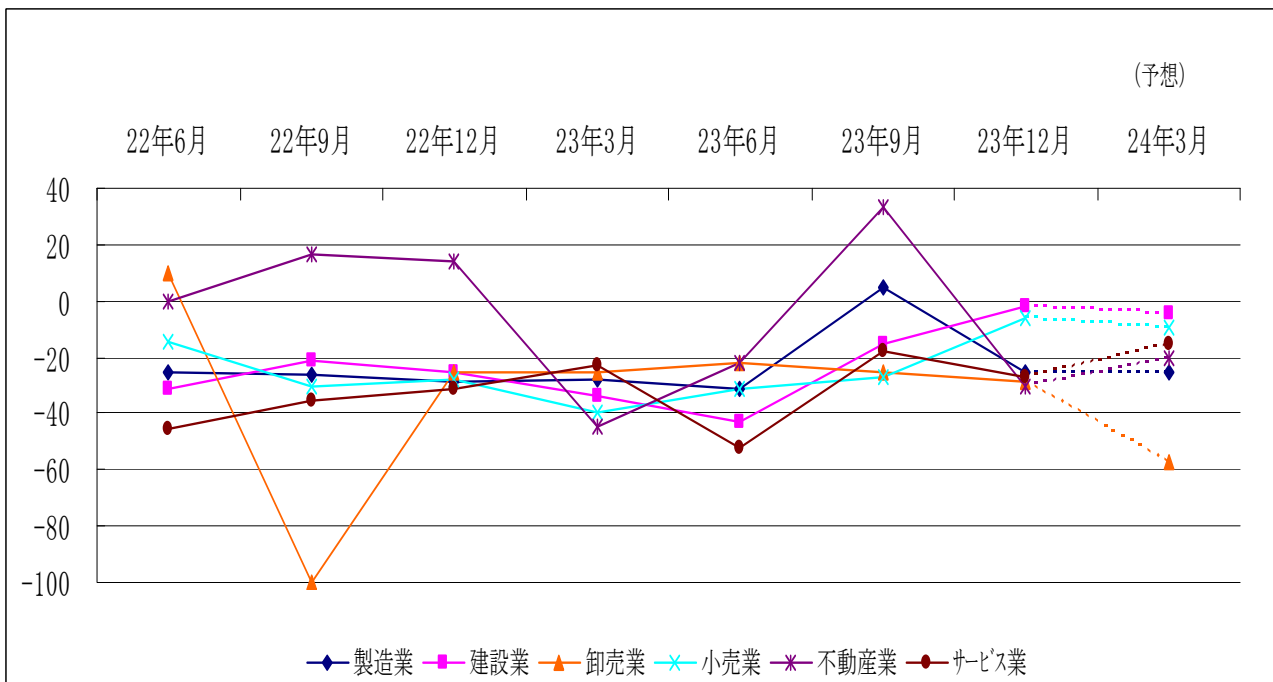
増減(1) = 今回DI - 前回DI 増減(2) = 予想DI - 今回DI

増減がプラスの時は景気の回復局面、マイナスの時は景気の後退局面を表します。

景況D I の推移(総合)



景況D I の推移(業種別)

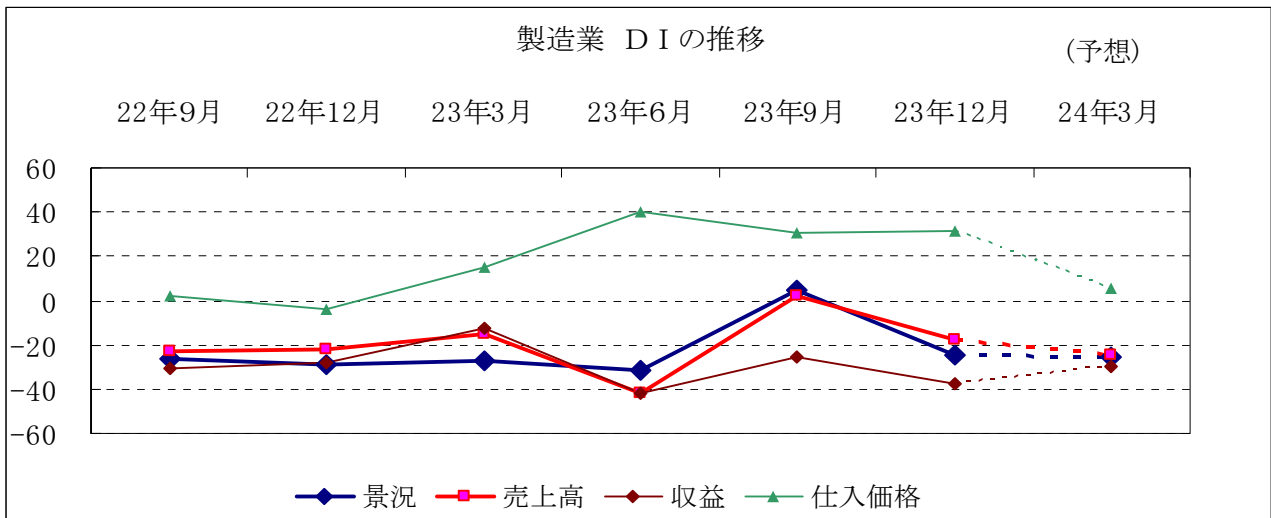


2. 業種別の状況

(1) 製造業 【景況感、業績ともに悪化しています】

今期の製造業は、売上高DIが19.8ポイント悪化して△17.5、収益DIは12.0ポイント悪化して△37.5、景況DIは29.7ポイント悪化して△25.0、仕入価格DIは0.7ポイント悪化(上昇)して31.6となりました。

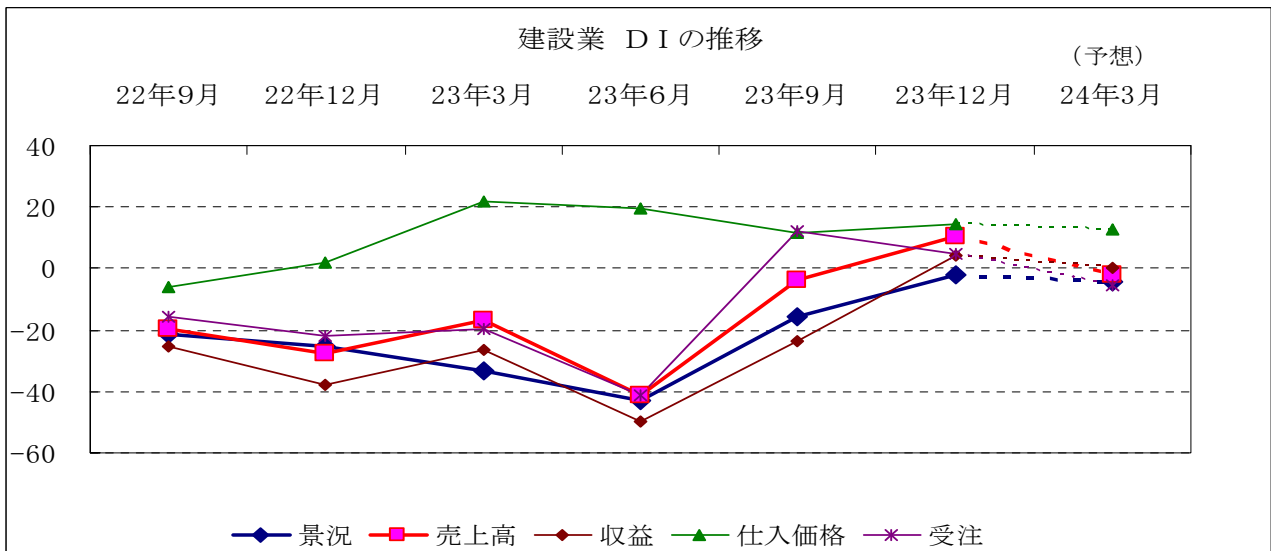
来期について、仕入価格は改善(下落)して、収益はやや改善、売上高はやや悪化、景況感はほぼ横ばいであると見られています。



(2) 建設業 【受注残高は悪化していますが景況感、売上高、収益ともに改善しています】

今期の建設業は、売上高DI14.5ポイント改善して10.5、収益DIは27.6ポイント改善して4.0、景況DIは13.7ポイント改善して△2.0、仕入価格DIは2.7ポイント悪化(上昇)して14.5となりました。受注残高についてDIは7.0ポイント悪化して5.0となりました。

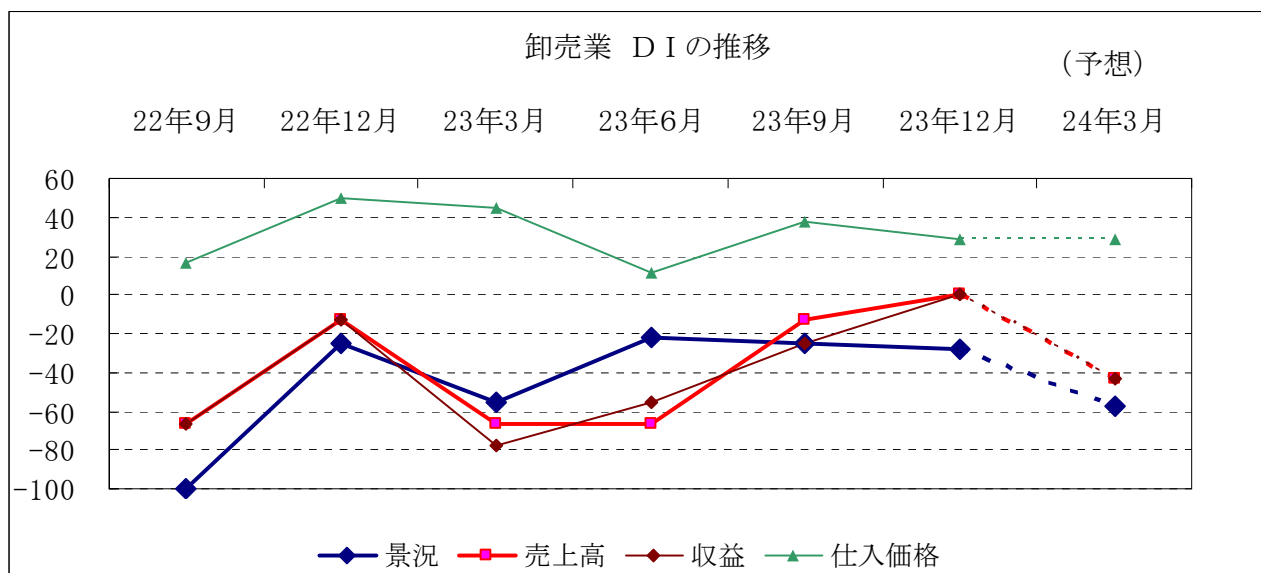
来期について、売上DIは悪化する、次いで景況DI、収益DI、受注DIもやや悪化するとみられています。



(3)卸売業 【景況感はやや悪化していますが、仕入価格、売上高、収益は改善しています】

今期の卸売業は売上高 DI は 12.6 ポイント改善して 0.1、収益 DI は 25.1 ポイント改善して 0.1、仕入価格 DI は 8.8 ポイント改善(下落)して 28.7、景況感 DI は 3.5 ポイント悪化して△28.5 となりました。

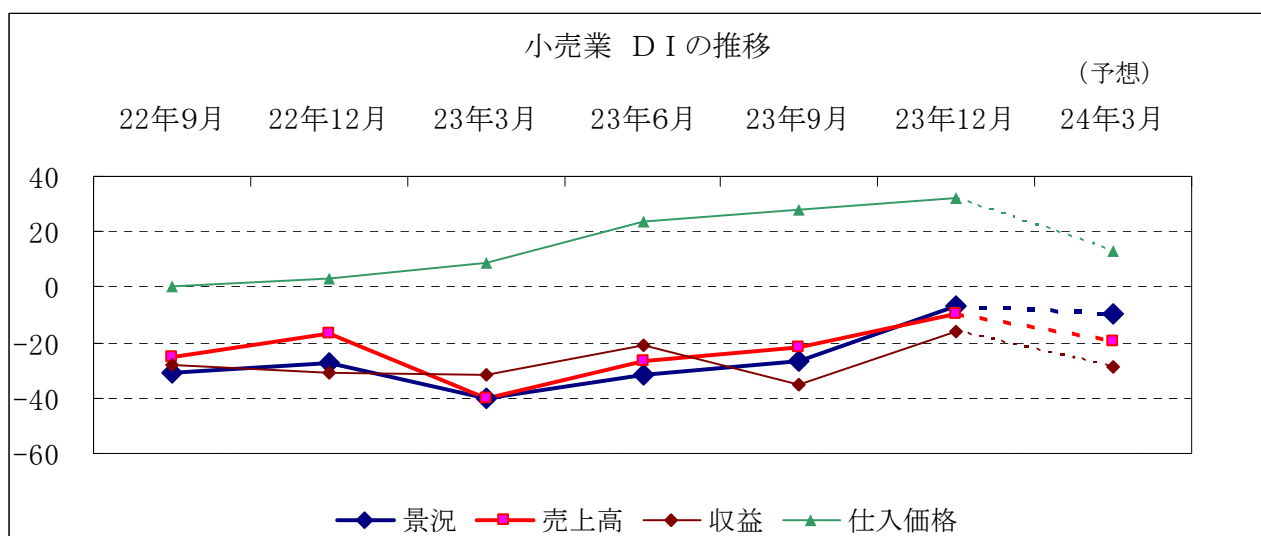
来期について、仕入価格は横ばいですが、売上高、収益、景況感ともに悪化するとみられています。



(4)小売業 【仕入価格は上昇しましたが、収益、売上高、景況感は改善しています】

今期の小売業は、仕入価格 DI は 4.4 ポイント悪化(上昇)して 32.3、収益 DI は 19.1 ポイント改善して△16.1 となりました。売上高 DI は 12.0 ポイント改善し△9.6、景況 DI は 20.5 ポイント改善し△6.5 となりました。

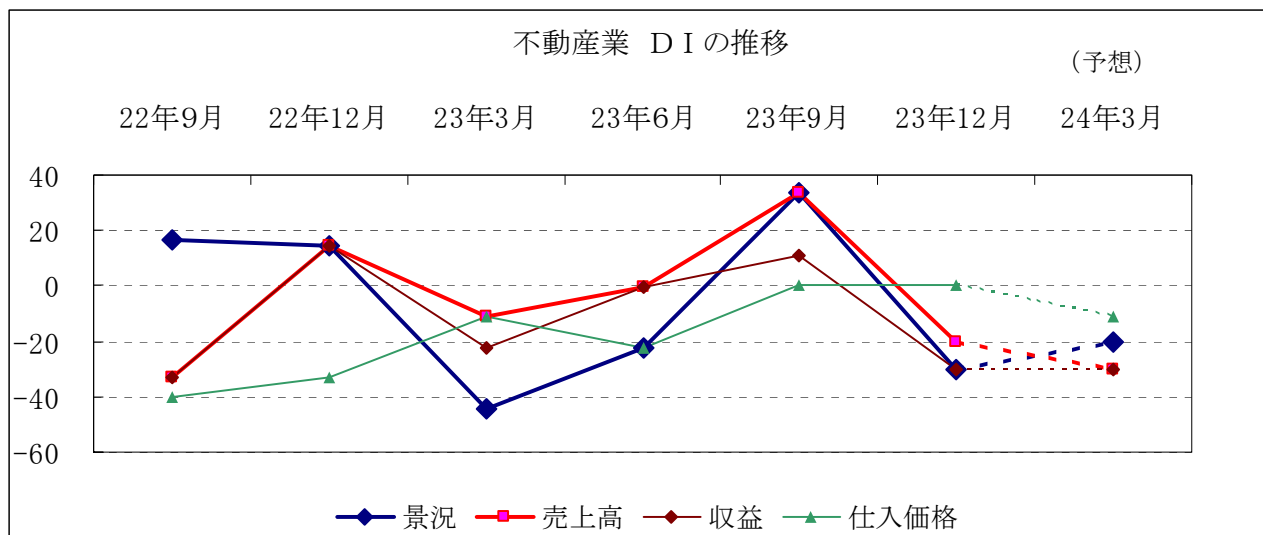
来期について、仕入価格は改善(下落)するも景況感、売上高、収益ともに悪化すると見られています。



(5)不動産業 【仕入価格は横ばいでしたが、売上高、収益、景況感は悪化しています】

今期の不動産業は、仕入価格 DI は 0.0 ポイントと横ばいでしたが、売上高 DI は△53.4 ポイント悪化し△20.0、収益 DI は△41.0 ポイント悪化し△30.0、景況感 DI は△63.4 ポイント悪化し△30.0 となりました。

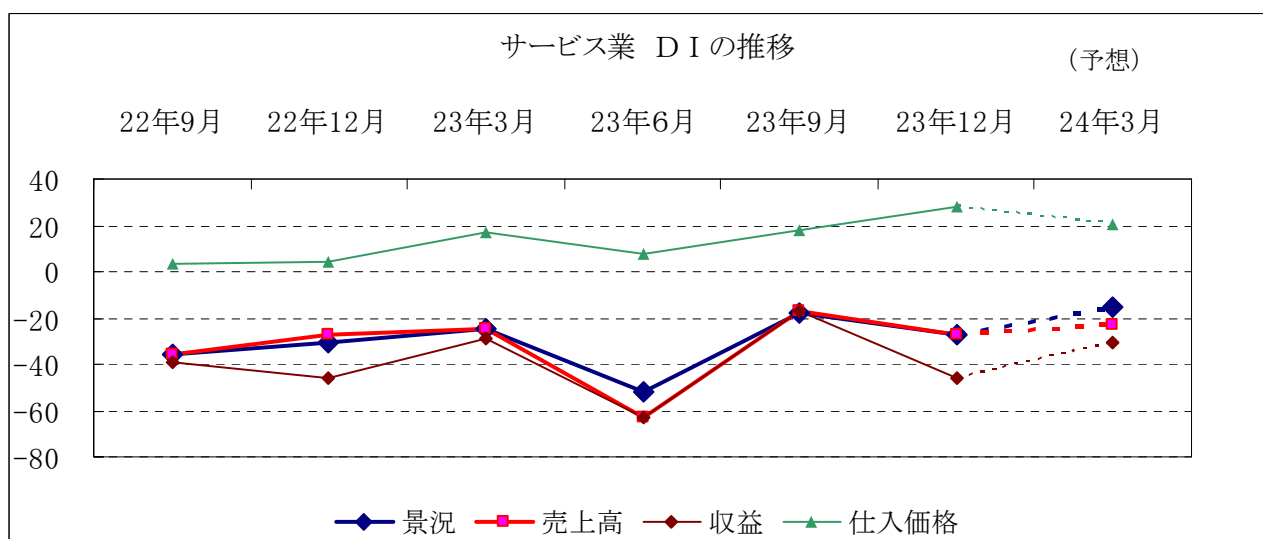
来期について、売上高は悪化しますが仕入価格が改善(下落)、収益が横ばい景況感は改善すると見られています



(6)サービス業 【仕入価格が上昇し、売上高、収益、景況感においても悪化しました】

今期のサービス業は、仕入価格 DI は 9.8 ポイント悪化(上昇)して 28.0 となり、売上高、収益、景況感においても悪化しました。売上高 DI は△9.5 ポイント悪化し△26.9、収益 DI は△28.8 ポイント悪化し△46.2、景況感 DI は△9.4 ポイント悪化し△26.9 となりました。

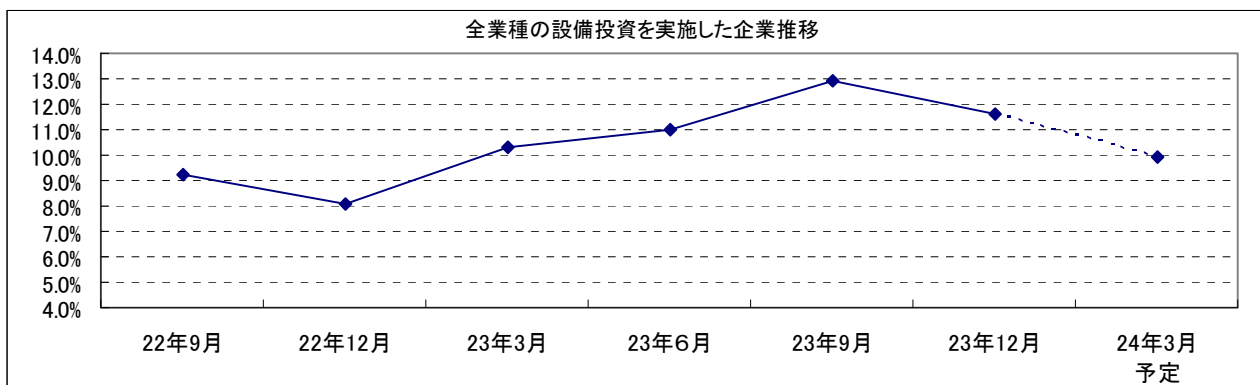
来期について、仕入価格の改善(下落)と景況感、売上高及び収益がやや改善すると見込んでいます。



3. 設備投資の状況 【設備投資を実施した企業は 11.6% でやや前期を下回りました】

< 設備投資を実施した企業割合 (%) >

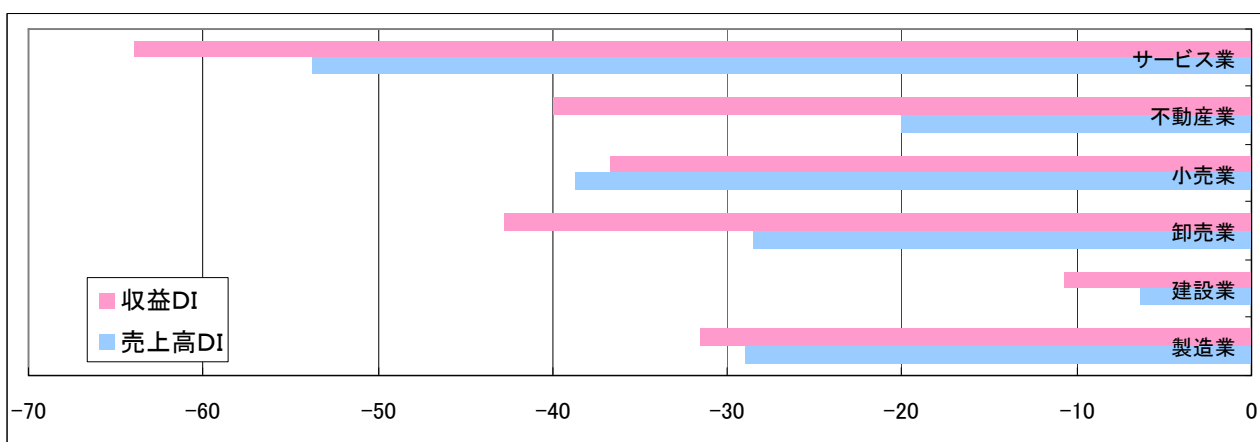
	<全業種>	製造業	建設業	卸売業	小売業	不動産業	サービス業
前期実績	12.9	9.8	15.7	12.5	14.7	0.0	13.0
今期実績	11.6	8.1	10.4	14.3	13.8	22.2	12.0
来期予定	9.9	16.7	8.3	14.3	7.4	0.0	8.0



4. 売上高・収益の今期と前年同期の比較 【売上高、収益ともに減少しています】

< 売上高・収益の対前年同期比較 >

	売上高			収益		
	増加(%)	減少(%)	D I	増加(%)	減少(%)	D I
製造業	18.4	47.4	-29.0	18.4	50.0	-31.6
建設業	23.4	29.8	-6.4	17.0	27.7	-10.7
卸売業	14.3	42.9	-28.6	14.3	57.1	-42.8
小売業	9.7	48.4	-38.7	10.0	46.7	-36.7
不動産業	20.0	40.0	-20.0	10.0	50.0	-40.0
サービス業	7.7	61.5	-53.8	4.0	68.0	-64.0



地域内の主な経済指標

＜揖斐・本巣地区の人口動態＞

地域	平成23年12月1日		年間の変動(22年12月～23年11月)						1年間の増減
			自然動態			社会動態			
	世帯	人口	出生	死亡	差引	転入	転出	差引	
瑞穂市	19,632	52,409	642	333	309	2,727	2,622	105	414
本巣市	11,251	34,939	286	351	△ 65	1,172	1,211	△ 39	△ 104
北方町	6,999	18,400	197	127	70	1,104	1,151	△ 47	23
揖斐川町	7,701	23,297	129	328	△ 199	519	749	△ 230	△ 429
大野町	7,336	23,798	162	215	△ 53	790	744	46	△ 7
池田町	7,850	24,962	203	230	△ 27	745	706	39	12
岐阜県	740,202	2,074,140	17,443	21,000	△ 3,557	72,531	76,601	△ 4,070	△ 7,627

＜揖斐・本巣地区の建築着工件数＞

(単位:戸数)

地域	昨年度 (22年4月～23年3月)			今年度 (23年4月～23年11月)			直近3ヵ月の推移					
	持家	貸家	計	持家	貸家	計	9月		10月		11月	
							持家	貸家	持家	貸家	持家	貸家
瑞穂市	294	130	424	216	106	322	32	0	36	10	22	30
本巣市	136	38	174	95	24	119	9	0	12	6	17	6
北方町	80	80	160	57	38	95	3	0	7	30	5	0
揖斐川町	59	14	73	43	0	43	6	0	6	0	7	0
大野町	85	4	89	82	8	90	12	0	9	0	7	0
池田町	104	32	136	74	12	86	11	0	12	0	7	8
＜計＞	758	298	1,056	567	188	755	73	0	82	46	65	44

＜地域別販売電力量＞

(単位:MWh)

地域	区分	9月		10月		11月		12月	
		電力量	前年比	電力量	前年比	電力量	前年比	電力量	前年比
瑞穂市	電灯	9,826	-10.97%	7,256	-4.99%	7,602	-7.68%	9,774	2.82%
	電力	19,336	-4.50%	16,939	-2.02%	17,081	-0.22%	17,421	0.07%
本巣市	電灯	6,527	-10.67%	4,966	-3.91%	5,280	-6.45%	6,707	2.33%
	電力	23,073	-13.06%	23,834	-2.14%	20,704	-12.04%	23,078	-5.13%
北方町	電灯	3,463	-16.07%	2,978	-1.36%	2,661	-6.99%	3,357	0.51%
	電力	7,378	-7.42%	7,030	1.68%	6,494	-2.01%	5,764	2.14%
揖斐川町	電灯	4,827	-11.02%	4,007	-1.79%	3,952	-7.92%	4,701	-1.53%
	電力	8,597	0.55%	7,440	2.59%	7,419	5.41%	7,667	2.62%
大野町	電灯	4,263	-12.48%	3,333	-2.46%	3,215	-6.65%	4,081	-0.07%
	電力	7,230	-7.58%	6,801	-3.26%	6,714	-0.13%	7,053	-2.42%
池田町	電灯	4,664	-8.92%	3,631	-7.11%	3,371	-3.91%	4,002	-4.42%
	電力	12,133	-7.28%	10,861	-6.27%	10,233	-2.38%	10,107	-1.86%
岐阜市	電灯	90,096	-11.87%	70,115	-4.91%	63,335	-7.24%	76,701	-2.84%
	電力	123,593	-9.17%	106,716	-5.26%	94,535	-3.89%	98,225	-2.95%
大垣市	電灯	33,616	-10.70%	26,420	-5.39%	23,367	-7.06%	27,987	-3.33%
	電力	100,119	-7.78%	96,917	-1.43%	92,929	0.32%	91,930	0.54%

(資料:岐阜県統計情報、中部電力)

特別調査

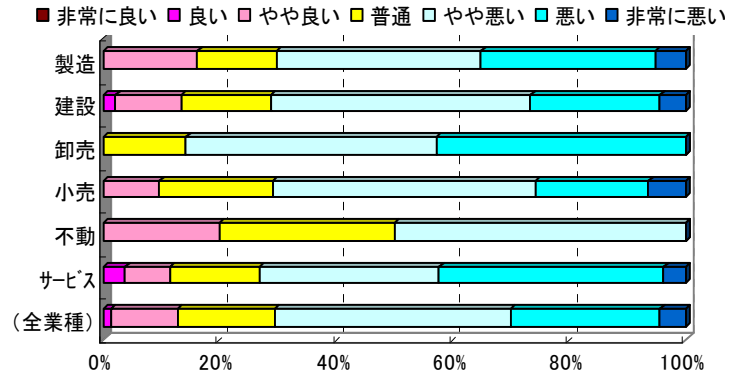
平成24年の景気見通しについて

今回の特別調査では平成24年の景気見通しと自社の業況見通し、業績が上向く転換点についてアンケートを行いました。
(有効回答数：当金庫取引先 156社)

1. 平成24年の日本の景気見通し

平成24年の日本の景気見通しとしては、全業種において「非常に良い」との回答はありませんでした。「良い」と「やや良い」の合計が20件あり12.8%、「やや悪い」と「悪い」の合計が103件あり66.0%、「非常に悪い」との回答が7件あり4.4%となりました。

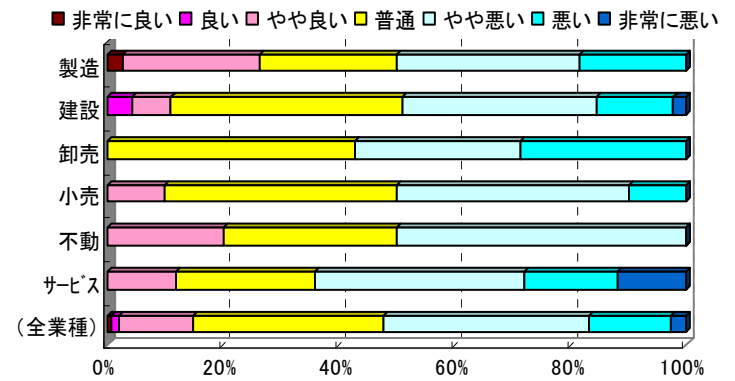
全ての業種において「やや悪い」～「悪い」との回答が全体の多くを占めています。



2. 平成24年の自社の業況見通し

平成24年の自社の業況見通しとしては、全業種において「非常に良い」との回答は1件あり0.6%、「良い」と「やや良い」の合計が22件あり14.1%、「やや悪い」と「悪い」の合計が77件あり49.6%、「非常に悪い」との回答が4件あり2.5%となりました。

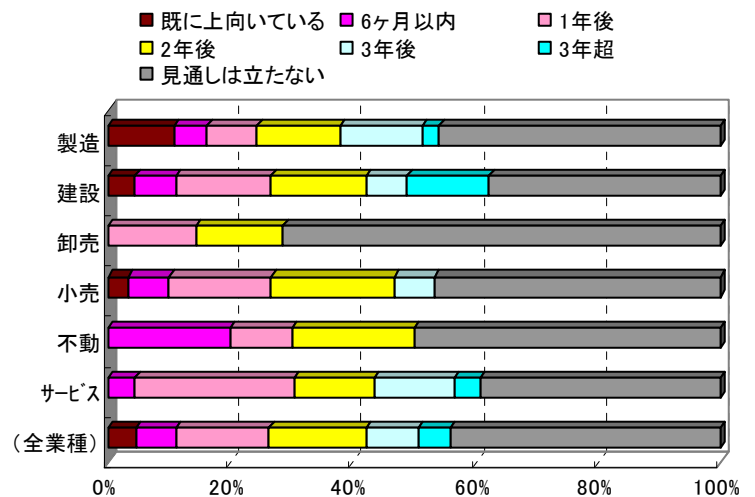
全ての業種において「普通」～「やや悪い」との回答が全体の多くを占めています。



3. 業績が上向く転換点

業績が上向く転換点としては、全業種において「見通しは立たない」が44.0%と最も多く、以下「2年後」の15.7%、「1年後」の15.1%、「3年後」の8.5%、「6ヶ月以内」の6.5%、「3年超」の5.2%と続きました。

「既に上向いている」との回答は、製造業で10.8%ありましたが、全業種では最も少ない4.6%となりました。



—お取引先のコメント—

- ・ 売上収益ともに増加したが人員の削減と時期的なものであり見通しとしては厳しいものがある。
- ・ 工事での利益率が悪くなっている。
- ・ 受注競争が激しく、受注工事量も少なく利益率がとても悪い。
- ・ 正しいデフレ対策をとるまで回復は難しいと思う。
- ・ 消費税、決定してほしい。
- ・ 大変です。

(原文のまま掲載しています)